

第249回 日本小児科学会兵庫県地方会

プログラム

❖日時 平成22年2月13日(土) 13:30～

❖会場 兵庫医科大学 平成記念会館

阪神電鉄武庫川駅下車 西出口

- 本地方会は、日本小児科学会認定専門医のための研修8単位です。
- 参加費として1,000円徴収いたします。
- 口演の発表時間は5分、討論時間は2分です。



一 般 講 演 (発表5分、質疑2分)

第1グループ (13:30~14:12)

座 長 皆 川 京 子

1. NICUにおける新たな院内感染

兵庫県立塚口病院 小児科 前 田 真 治

2. 複数の染色体(3. 4. 5. 13. 14番)に異常を認めた中枢神経奇形の1例

加古川市民病院 小児科 小 林 光 郎

3. 一児が臍帯ヘルニアであった一絨毛膜二羊膜性双胎の2例

姫路赤十字病院 小児科 植 村 加 奈 子

4. 出生後の検査にて診断された先天性多発性腸閉鎖症の1例

神戸大学大学院医学研究科外科学講座 小児外科学 久 松 千 恵 子

5. 大量の消化管出血をきたし、ミルクアレルギーが疑われた1症例

兵庫県立こども病院周産期医療センター 新生児科 下 川 祐 子

6. 18歳になった超低出生体重児の自立、社会参加への模索

兵庫県立塚口病院 小児科(成育外来) 野 中 路 子

第2グループ (14:12~15:01)

座 長 大 塚 欣 敏

7. 慢性肺疾患のためAraC化学療法を回避した胎児期発症一過性骨髄異常増殖症の1例

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野 夏 山 順 子

8. マイコプラズマ感染症に伴う高サイトカイン血症と鑑別が困難であった
未分化型大細胞リンパ腫ALCL(anaplastic large cell lymphoma)の1例

加古川市民病院 小児科 岡 野 真 理 子

9. 当院における小児血液腫瘍疾患に対する骨髄非破壊的前処置を用いた同種造血細胞
移植の現状

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野 大 坪 裕 美

10. Hibワクチン、ムンプスワクチン接種後に発症した特発性血小板減少性紫斑病の1例

尼崎医療生協病院 小児科 武 本 英 児

11. 非血液疾患の入院を契機に発見されたMYH9異常症の1家系

西神戸医療センター 小児科 三 木 康 暢

12. 巨大脾嚢胞により蛋白尿が出現した1男児例

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野 忍 頂 寺 毅 史

13. 溶血性尿毒症症候群の1例

兵庫県立塚口病院 小児科 丸 茂 智 恵 子

第3グループ (15:01~15:50)

座長 安部 治郎

14. 救急外来から集中治療室に直行する小児救急患者の実態
神戸市立医療センター中央市民病院 小児科 田中 麻希子
15. 肥満教育プログラム「チャレンジ・キッズ」を通してみた肥満合併症の検討
県立柏原病院 小児科 加藤 神奈
16. 保育所・幼稚園における肥満予防に関する嘱託医・園医の意識調査
兵庫県医師会乳幼児保健委員会 委員 谷口 賢蔵
17. 十二指腸潰瘍から出血し血便を認めたピロリ菌陽性の不登校の14歳男児
西宮市立中央病院 小児科 門谷 眞二
18. 精神症状を主訴とした14歳女児のBasedow病の1例
姫路赤十字病院 小児科 二階堂 量子
19. てんかんとして治療された転換性障害の一例
兵庫県立こども病院 救急集中治療科 心石 裕子
20. PFAPAと診断した5症例の治療反応性について
社会保険神戸中央病院 小児科 田中 香織

————— 休 憩 (15:50~16:00) —————

第4グループ (16:00~16:42)

座長 門谷 眞二

21. 乳児期に発症した壊死性筋膜炎の2例
兵庫医科大学病院 小児科 西村 実果
22. 副鼻腔炎より眼窩内感染を来たした2症例
公立豊岡病院 小児科 山本 哲也
23. CTX・CTR低感受性のlow BLNARによる細菌性髄膜炎の一例
市立伊丹病院 小児科 南 麻衣子
24. コッホ現象、ELISPOT陽性で潜在性結核感染症(LTBI)と考えられた4ヶ月乳児の1例
神鋼病院 小児科 木藤 嘉彦
25. 生来健康な児に発症したサイトメガロウイルス肝炎の1例
姫路赤十字病院 小児科 山本 寛子
26. 広節裂頭条虫症の2例
兵庫医科大学病院 小児科 西山 久美子

第5グループ (16:42~17:38)

座長 日野利治

27. 当院における新型インフルエンザ入院患者についての検討
兵庫県立塚口病院 小児科 芥川 宏
28. 当院における酸素投与を必要とした新型インフルエンザ肺炎症例の検討
六甲アイランド病院 小児科 水田 麻雄
29. 急速に呼吸不全が進行した新型インフルエンザの4症例
六甲アイランド病院 小児科 竹中 佳奈栄
30. 新型インフルエンザ感染に気胸を併発した気管支喘息の1女児例
兵庫県立淡路病院 小児科 神吉 直宙
31. 当院で経験した新型インフルエンザ重症肺炎の1例
明石市立市民病院 小児科 矢野 未央
32. マイコプラズマ感染を合併し人工呼吸管理を要した新型インフルエンザ肺炎の1例
神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学 藤田 花織
33. インフルエンザA (H1N1) 脳症の一例 —TSHの低下を認めた一例—
市立加西病院 世戸 博之
34. インフルエンザA型 (H1N1) 脳症の一例 —Twilight stateを呈した一例—
加古川市民病院 小児科 新倉 路生

第6グループ (17:38~18:27)

座長 坂崎尚徳

35. 急性心不全合併IVIG不応性川崎病に対する血漿交換療法の1例
神戸市立医療センター中央市民病院 小児科 廣田 篤史
36. 当院における過去2年間の川崎病の動向について
兵庫県立塚口病院 小児科 川崎 英史
37. 頻拍誘発性心筋症をきたした多源性心房頻拍の1例
兵庫県立こども病院 循環器科 制野 勇介
38. 新生児期に発症した心筋炎の1例
兵庫県立西宮病院 小児科 西海 直子
39. Amplatzer duct occluder (ADO) により動脈管を閉鎖した二例
兵庫県立こども病院 循環器科 小川 禎治
40. 気管支喘息発作に合併した縦隔気腫・硬膜外気腫の1例
尼崎医療生協病院 横尾 貴史
41. 小児期気管切開術後の気管腕頭動脈瘤の4例
兵庫県立こども病院 心臓血管外科 松久 弘典

1. NICUにおける新たな院内感染

兵庫県立塚口病院 小児科

○前田真治、飯尾 潤、丸茂智恵子、川崎英史、大西 聡、高原賢守、
多久和麻由子、木村祐次郎、毎原敏郎、松本貴子、芥川 宏、野中路子、
平尾敬男

当院のMRSAを主目標とした感染対策は、比較的うまく実施されていると思われていた。しかし2009年の春からアシネトバクターや緑膿菌の報告が目につくようになった。そこで、それらを親水性グラム陰性菌としてひとまとめにして、2008年からの保菌状況を見返した。MRSAの排除は維持されていたが、親水性グラム陰性菌群が蔓延していた事が判明した。発症者は無かった。我々の感染対策の整合性を示し、また新たに検討した対策を示す。

hydrophilic gram-negative bacteria

2. 複数の染色体(3. 4. 5. 13. 14番)に異常を認めた中枢神経奇形の1例

加古川市民病院 小児科、兵庫県立塚口病院 小児科¹⁾

○小林光郎、大西徳子、岡野真理子、小寺孝幸、上村裕保、海老名俊亮、
湊川 誠、森沢 猛、伊東利幸、足立昌夫、村瀬真紀、石田明人、
野中路子¹⁾

在胎37週3日、出生体重2,238g(-1.65SD)で帝王切開にて出生した男児。出生前、IUGR以外に明らかな異常指摘なし。眼間開大、小顎、多指、口蓋裂など多発外表奇形あり、中枢神経奇形として多小脳回および脳梁欠損を認めた。G-banding法にて3番と14番の相互転座、4. 5. 14番染色体の複雑な構造奇形、13モノソミーと診断された一例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

polymicrogyria, agenesis of corpus callosum

3. 一児が臍帯ヘルニアであった一絨毛膜二羊膜性双胎の2例

姫路赤十字病院 小児科

○植村加奈子、二階堂量子、山本寛子、岸田 真、山本暢之、西山将広、北山路子、上田陽子、伴 紘文、高見勇一、柄川 剛、高橋宏暢、岸本芽子、濱平陽史、五百蔵智明、久呉真章

臍帯ヘルニアは胎生初期の発生異常が原因とされている。今回、一児にのみ臍帯ヘルニアを呈した一絨毛膜二羊膜性双胎2例を経験した。1例目は在胎29週、日齢4にヘルニア根治術を施行し日齢23に敗血症のため死亡。2例目は在胎32週、右耳介低形成あり。日齢5にサイロ形成術、日齢14に腹壁閉鎖術施行し経過良好である。一絨毛膜二羊膜性双胎の一児のみが臍帯ヘルニアである症例は希少であるため文献的考察を加え報告する。

omphalocele, monochorionic diamniotic twin

4. 出生後の検査にて診断された先天性多発性腸閉鎖症の1例

神戸大学大学院医学研究科外科学講座 小児外科学

○久松千恵子、在間 梓、西島栄治

症例は1絨毛膜性双胎の第1子の女児。在胎30週から腸管拡張を指摘されていた。在胎34週2日、体重2,304gで出生。生後腹部は平坦で排便はなく、経鼻胃管からは胆汁の排出を認めた。腸閉塞の精査として、腹部単純X線写真、腹部超音波検査、注腸造影検査を行い、先天性多発性腸閉鎖症と診断。日齢1に手術を行ったところ、高位空腸から下行結腸にわたり計15ヵ所の閉鎖部を認めた。

congenital multiple intestinal atresias, diagnosis

5. 大量の消化管出血をきたし、ミルクアレルギーが疑われた1症例

兵庫県立こども病院周産期医療センター 新生児科、
神戸市立医療センター中央市民病院 小児科¹⁾

○下川祐子、田村彰広、妹尾絵美、猪俣 慶、秋田大輔、坂井仁美、上田雅章、
溝渕雅巳、芳本誠司、中尾秀人、田村卓也¹⁾、広田篤史¹⁾、山川 勝¹⁾

症例は在胎40週6日3344g、自然経膈分娩にて出生 Apgar score 9/10。日齢2に大量の消化管出血による出血性ショックとなり、当院に搬送された。緊急を要する外科的疾患は否定、支持療法にて軽快、臨床経過と除外診断にてミルクアレルギーが疑われた。本疾患は、検査で特異的な所見を認めないことも多く診断は容易でない。新生児期の消化管出血では、ミルクアレルギーにも留意する必要がある。

milk allergy, hemorrhagic shock, gastrointestinal bleeding, milk-specific IgE

6. 18歳になった超低出生体重児の自立、社会参加への模索

兵庫県立塚口病院 小児科（成育外来）

○野中路子

超低出生体重児として出生し18歳になった軽度の痙性麻痺と精神遅滞をもつ女性を報告する。家族の希望で校区の普通学級に通ったが、級友との関係はうまくいかず、いじめの対象にもなった。その後、普通高校から専門学校へと進路をすすめる自動車免許も取得し、フォローアップを中断していたが、実習中にトラブルが頻発し再度来院、成育歴を振り返り、本人への告知に続いて今後の社会参加を模索中である。

EVLBWI, PDD NOS, social participation, continuum of care

7. 慢性肺疾患のため AraC 化学療法を回避した胎児期発症一過性骨髄異常増殖症の 1 例

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野

○夏山順子、橋本総子、藤岡一路、森川 悟、三輪明弘、柴田暁男、森岡一郎、早川 晶、横山直樹、松尾雅文

症例は在胎 30 週 0 日、出生体重 1,656g の 21 トリソミーの男児。腹水・出血症状を有する胎児期発症の一過性骨髄異常増殖症 (TAM) を呈した。重症の慢性肺疾患のため化学療法を選択せず経過をみたところ、芽球は自然に減少した。TAM のうち早産出生・腹水・出血症状を呈する胎児期発症例は、肺毒性を有する AraC 化学療法なしでは高率に死亡する。しかし、その治療適応は児の病態と AraC の肺毒性を考慮し、決定すべきである。

transient abnormal myelopoiesis, cytosine arabinoside (AraC), chronic lung disease, 21 trisomy

8. マイコプラズマ感染症に伴う高サイトカイン血症と鑑別が困難であった未分化型大細胞リンパ腫 ALCL (anaplastic large cell lymphoma) の一例

加古川市民病院 小児科、兵庫県立こども病院 血液腫瘍科¹⁾

○岡野真理子、大西徳子、小寺孝幸、中尻智史、波多野史子、小林光郎、渡邊愛可、山内 淳、上村裕保、海老名俊亮、親里嘉展、西山敦史、湊川 誠、神岡一郎、森沢 猛、足立昌夫、村瀬真紀、石田明人、小阪嘉之¹⁾

症例は 15 歳女児。抗生剤に反応しない発熱、高炎症反応を主訴に入院となった。検査所見よりマイコプラズマ感染に伴う高サイトカイン血症を疑いステロイドを投与した。以後速やかに解熱したがステロイド中止に伴い発熱、腰痛が出現した。腰椎 MRI にて骨融解像を、PET にて縦隔リンパ節、骨に集積を認め悪性リンパ腫を疑い兵庫県立こども病院に転院した。同院での骨生検で ALCL の診断に至った。文献的考察を加え報告する。

ALCL, mycoplasma, hypercytokinemia

9. 当院における小児血液腫瘍疾患に対する骨髄非破壊的前処置を用いた同種造血細胞移植の現状

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野

○大坪裕美、下竹敦哉、石森真吾、久保川育子、森 健、光田好寛、早川 晶、竹島泰弘、松尾雅文

近年小児科領域では、細胞毒性の少ない薬剤や低線量の放射線による骨髄非破壊的前処置を用いた同種造血細胞移植（RIST）が行われる傾向にある。当院では過去6年間に血液腫瘍疾患患児13人に対し15回のRISTを施行した。同時期に行った従来型の骨髄破壊的前処置を用いた移植（11人、12回）に比して生存率は良好で移植関連合併症は明らかに低減したが、生着不全を2例経験した。RISTの現状及び問題点につき考察する。

RIST, graft failure, transplant related complications

10. Hib ワクチン、ムンプスワクチン接種後に発症した特発性血小板減少性紫斑病の1例

尼崎医療生協病院 小児科、うえだこどもクリニック¹⁾、
あおぞら生協クリニック²⁾

○武本英児、東口卓史、上田 亨¹⁾、佐藤仁美、菅 純二、合田美恵子²⁾、
藤岡一郎、富永弘久

2歳女児。背部・下腿に紫斑出現し近医よりITP疑いとして紹介入院となった（Plt 0.7万）。既往歴特記無く、数週間前に罹患した病気はないが、発症30日前にHib ワクチン、16日前にムンプスワクチンを接種していた。ワクチン接種後の急性ITPは報告されているが、ムンプスワクチン後、Hib ワクチン後の報告は極めて少ない。文献的考察と併せて報告する。

ITP, Hib vaccine, mumps vaccine

11. 非血液疾患の入院を契機に発見されたMYH9 異常症の1家系

西神戸医療センター 小児科

○三木康暢、内田佳子、井上珠希、岩田あや、由良和夫、上村克徳、仁紙宏之、
松原康策、深谷 隆

症例 1 歳女児。肺炎での入院時Plt 12.8万/ μ lと低値を認めた。退院後もPlt 8～10万/ μ lと低値。父、父方叔父、父方祖母に血小板減少の指摘あり。出血斑・難聴なし。末梢血で巨大血小板認め、遺伝性巨大血小板性血小板減少症を疑った。A型細胞性ミオシン重鎖染色・RFLP検査・遺伝子検査でMYH9 異常症（コドン1165変異）と診断。顕微鏡での血小板サイズの観察と詳細な病歴聴取が重要な手がかりとなった。

MYH9 disorder, non-muscle myosin heavy chain-A dyeing, family history,
hereditary macrothrombocytopenia

12. 巨大脾嚢胞により蛋白尿が出現した1男児例

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学分野、
同上 外科学講座 小児外科学分野¹⁾

○忍頂寺毅史、橋村裕也、貝藤裕史、在間 梓¹⁾、久松千恵子¹⁾、野津寛大、
飯島一誠、松尾雅文

学校検尿の主たる目的は慢性腎炎の早期発見であるが、それ以外が原因の尿異常も少なくない。また起立性蛋白尿など非病的なものも混在しており、腎生検など侵襲的検査には熟慮を要する。今回我々は、蛋白尿精査のための腹部超音波検査で巨大脾嚢胞を認め、これを摘出したところ蛋白尿が完全に消失した1例を経験した。学校検尿異常者に対する腹部超音波検査の重要性を再認識した症例であり、文献的考察を加えて報告する。

splenic cyst, school urinary screening system, proteinuria, sonography

13. 溶血性尿毒症症候群の一例

兵庫県立塚口病院 小児科、同 小児外科¹⁾

○丸茂智恵子、大西 聡、川崎英史、多久和麻由子、高原賢守、飯尾 潤、
毎原敏郎、片山哲夫¹⁾、中條 悟¹⁾

症例は特に既往のない3歳女児。入院5日前から腹痛、血便が出現し、児が傾眠傾向、乏尿を呈してきたため緊急入院となった。血液検査にて貧血、血小板減少、腎機能障害を認め、溶血性尿毒症症候群(HUS)と診断し、人工呼吸管理下に12日間、持続的血液透析を施行し救命した。HUSの重症例では血液透析が必要であり、速やかに血液透析を導入することで良好な経過をたどった一例を経験したため、若干の文献的考察を加えて報告する。

HUS, CHD

14. 救急外来から集中治療室に直行する小児救急患者の実態

神戸市立医療センター中央市民病院 小児科

○田中麻希子、米本大貴、吉田健司、廣田篤史、宮越千智、岸本健治、
清水滋太、田村卓也、岡藤郁夫、田場隆介、宇佐美郁哉、山川 勝、
富田安彦、春田恒和

当院救急外来を2005年1月以降57か月間に受診した15歳以下患者62,062人の診療録を後方視的に検討した。この期間に31(6.5/年)のICU症例が一次受診しており、その半数近く(2.9/年)はウォークインであった。危急的小児救急患者の救命のためには、初療施設においてもPALSなど心肺蘇生教育・訓練の普及に努めるとともに、小児ICUの充実と搬送体制の整備が必要と考えられた。

ER

15. 肥満教育プログラム「チャレンジ・キッズ」を通してみた肥満合併症の検討

県立柏原病院 小児科、神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学¹⁾

○加藤神奈、福地瑞恵、栗野宏之¹⁾、和久祥三、梁川裕司、酒井國安

当院では肥満児の意識改革を目的に「チャレンジ・キッズ」なる入院指導を実施している。今回、参加者の各年齢層における肥満合併症の有無についてまとめたので報告する。参加者は6歳から17歳までの19名（小学生13人、中学生以上6人）。肥満度は+23.3～+91.9%。小学生と中学生で肥満度に差はなかったが、中学生以上でメタボリックシンドローム、脂肪肝などの合併症を多く認めた。中学生以上の肥満には合併症に留意して診察する必要がある。

obesity, metabolic syndrome

16. 保育所・幼稚園における肥満予防に関する嘱託医・園医の意識調査

兵庫県医師会乳幼児保健委員会 委員

○谷口賢蔵

乳幼児の肥満は、成人後のメタボリック症候群の発症につながる。保育園・幼稚園での肥満予防の実施に関する嘱託医・園医の意識を調査した。（結果）嘱託医・園医のほとんどは、乳幼児期の肥満予防の重要性については認識していた。しかし、実際に取り組んでいる医師は40%であった。60%の医師は、肥満予防の指導に前向きであり、内容を選べば多くの保育園・幼稚園で実施が可能と考えられた。

children, metabolic syndrome

17. 十二指腸潰瘍から出血し血便を認めたピロリ菌陽性の不登校の14歳男児

西宮市立中央病院 小児科

○門谷眞二、佐久間悟

症例は14歳男児。以前より不登校で胃痛、貧血があり、近医で内服処方や針治療をおこなっていた。入院前日にチューハイを飲んで、翌日朝より気分不良、嘔吐、黒色便あり夕に当院救急外来受診。入院後、点滴にてH₂遮断薬の投与をおこなっていたが血便（鮮血と黒色便混在）持続し上部下部内視鏡検査を行ったところ、十二指腸潰瘍から出血していた。便のピロリ菌陽性で除菌療法を行った症例を経験したので報告する。

duodenal ulcer, alcohol, Helicobacter pylori

18. 精神症状を主訴とした14歳女児のBasedow病の1例

姫路赤十字病院 小児科、新日鉄広畑病院 小児科¹⁾

○二階堂量子、山本寛子、植村加奈子、山本暢之、西山将広、北山路子、岸田 真、上田陽子、伴 紘文、高見勇一、柄川 剛、高橋宏暢、岸本芽子、濱平陽史、五百蔵智明、久呉真章、丸山 準¹⁾

Basedow病は様々な症状を呈するが、今回はその中でも精神症状を強く認めた症例を経験した。精神疾患を疑われ、カウンセリングに通院していたが、近医での血液検査にて甲状腺機能亢進症を指摘され、当院紹介となった。MMI内服にて治療開始後、速やかに精神症状の改善を認めた。精神疾患の鑑別におけるBasedow病の重要性を、文献的考察を加えここに報告する。

Basedow's disease, psychiatric manifestation, hyperkinesis

19. てんかんとして治療された転換性障害の一例

兵庫県立こども病院 救急集中治療科

○心石裕子、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗、上谷良行

症例は12歳女児。3歳時光誘発けいれんを認め1年間抗てんかん薬内服した。以後有熱時のみに繰り返すけいれんと脳波異常からてんかんと診断され9歳時より内服再開した。平成21年10月頃より眠り続ける、一瞬の動作停止や記憶の喪失をくり返し、てんかんの増悪が疑われたため当院紹介となる。ビデオ脳波にて発作時の脳波異常は認めずてんかんは否定的であり、経過及び症状より転換性障害が疑われた。現在精神科フォロー中である。

video-EEG monitoring, epilepsy, conversion disorder

20. PFAPA と診断した5症例の治療反応性について

社会保険神戸中央病院 小児科

○田中香織、宇宿智裕、加納 原、坂本 泉

周期性発熱、アフタ性口内炎、咽頭炎／扁桃炎、頸部リンパ節腫脹を呈し、PFAPAと診断した最近の5症例に対して、シメチジン内服および扁桃摘出術による治療を行った。シメチジン内服を行った4症例は発熱周期が延長したが、そのうち3症例は体温や有熱期間に変化はなかった。一方、扁桃摘出術を施行した4症例のうち3症例は明らかに発熱回数が減少した。PFAPAに対して扁桃摘出の有効性が高いと考えられた。

PFAPA, tonsillectomy, cimetidine

21. 乳児期に発症した壊死性筋膜炎の2例

兵庫医科大学病院 小児科

○西村実果、前 寛、前川講平、清水義之、佐々木隆士、奥山宏臣、服部益治、
谷澤隆邦

今回、我々は乳児期に発症した壊死性筋膜炎の2例を経験した。1例目は5ヵ月男児。腸炎罹患中にDICを発症し保存的治療を行っていたが、経過中に肛門周囲のびらん部に壊死性筋膜炎を認めた。交換輸血等の集中治療で全身状態は改善するも、デブリードマン後に人工肛門増設を余儀なくされた。2例目は7ヵ月男児。痔瘻治療中に壊死性筋膜炎を発症し、迅速なデブリードマンにより進行を阻止する事ができた。文献的考察を加え報告する。

necrotizing fasciitis, debridement, infant

22. 副鼻腔炎より眼窩内感染を来たした2症例

公立豊岡病院 小児科

○山本哲也、中本裕介、香田 翼、前納万里、横田知之、木寺えり子、
港 敏則、吉田真策

副鼻腔炎は小児診療において日常的に見られる疾患だが、重篤な合併症を来たす事は多くない。今回我々は、発熱・眼瞼腫脹で受診されCT撮影にて副鼻腔炎及び眼窩膿瘍又は眼窩蜂巣炎と診断した2症例を経験した。前者は抗生剤投与、後者は抗生剤投与及び手術にて治癒した。眼窩内感染を来たす以前には耳鼻科的管理を要する既往なく、眼窩内感染の予防は困難であったと考えられた。今回の経過をまとめ、文献的考察を加えて報告する。

paranasinitis, orbital abscess, orbital phlegmon

23. CTX・CTR低感受性のlow BLNARによる細菌性髄膜炎の一例

市立伊丹病院 小児科

○南麻衣子、世間瀬基樹、中野さやか、神尾範子、中里寿美子、藪田玲子、
有田耕司、三木和典

8ヶ月の男児に発症した、CTX・CTR低感受性のlow BLNARによる細菌性髄膜炎を経験した。治療はCTX + SBT/ABPCからCTX + MEPMに変更後に解熱を認めたが、経過中に全身痙攣があり、脳波にて著名な除波を認めた。近年、本症例のようにCTX・CTR低感受性のBLNARが増加してきており、若干の文献的考察を加えて報告する。

low BLNAR, bacterial meningitis, antibiotics

24. コッホ現象、ELISPOT陽性で潜在性結核感染症(LTBI)と考えられた4ヶ月乳児の1例

神鋼病院 小児科、神戸市東灘区保健福祉部¹⁾

○木藤嘉彦、梶山瑞隆、伴 貞彦¹⁾

生後4ヶ月女児。BCG接種翌日から針痕部発赤、後に化膿・癬痕みられコッホ現象Grade5。ツベルクリン反応陰性。胸部X-p、胸部CT異常なし。QFT判定不能、ELISPOT陽性。潜在性結核感染症と診断しINH内服行った。乳児はBCG直接接種になり、ツ反自然陽転に代わってコッホ現象の評価が重要である。ヒト結核菌特異的検査の内、乳幼児ではQFTは判定困難であるが、ELISPOTは有用と考えられた。

latent tuberculosis infection (LTBI), BCG, Koch phenomenon

25. 生来健康な児に発症したサイトメガロウイルス肝炎の1例

姫路赤十字病院 小児科

○山本寛子、植村加奈子、二階堂量子、岸田 真、北山路子、西山将広、山本暢之、上田陽子、伴 紘文、高見勇一、柄川 剛、高橋宏暢、濱平陽史、五百蔵智明、久呉真章

症例は9歳女児。生来健康。発熱、嘔吐、肝酵素高値にて当院紹介。サイトメガロウイルス（以下CMV）IgG、IgM高値、また肝炎の原因となる他の疾患は否定的であり、CMV肝炎と診断。全身状態は良好で対症療法のみで約半年の経過で軽快した。CMVは先天感染や日和見感染の原因として重要であるが、健常人で伝染性単核球症以外の臓器感染症をきたした報告は稀である。その診断・治療について文献的考察を加えて報告する。

cytomegalovirus, hepatitis

26. 広節裂頭条虫症の2例

兵庫医科大学病院 小児科

○西山久美子、岡本恭明、前川講平、服部益治、谷澤隆邦

今回我々は広節裂頭条虫症を2例経験した。2例とも無症状で、排便時に白色紐状物の排泄を認め、受診した。検便にて虫卵を認め、広節裂頭条虫症が疑われた。入院後、X線透視下でガストログラフィンを注腸し、結腸内に虫体を確認した。その後、頭節を含めた完全な形で虫体を排泄した。現在外来経過観察中であるが、再度の集卵法で便中に虫卵は認めていない。近年若年者の症例報告数は増加しており、若干の文献的考察も加え報告する。

Diphyllobothrium nihonkaiense, child case, gastrografen

27. 当院における新型インフルエンザ入院患者についての検討

兵庫県立塚口病院 小児科、同 小児外科¹⁾、尼崎市保健所²⁾

○芥川 宏、大西 聡、川崎英史、丸茂智恵子、多久和麻由子、飯尾 潤、木村祐次郎、前田真治、松本貴子、野中路子、毎原敏郎、中條 悟¹⁾、片山哲夫¹⁾、平尾敬男、郷司純子²⁾

平成21年8月から12月までに新型インフルエンザの入院患者89名（迅速検査A型陽性88名、臨床診断1名、PCR検査での確定76名）を経験した。男61、女28名、年齢0～29歳。合併症として肺炎25名、喘息発作20名、異常言動・意識障害17名、熱性痙攣15名、縦隔気腫・皮下気腫5名、横紋筋融解症1名に認めた。治療として抗ウイルス薬88名、ステロイド薬19名、酸素投与48名、人工呼吸管理3名に行った。

pandemic (H1N1) 2009, children

28. 当院における酸素投与を必要とした新型インフルエンザ肺炎症例の検討

六甲アイランド病院 小児科

○水田麻雄、古賀千穂、竹中佳奈栄、梶 瑞佳、中野加奈子、太田國隆

2009年5月での新型インフルエンザの流行以降、肺炎を合併する例が増加しており、経過は多彩である。当院では急激に広範囲に無気肺を呈し呼吸不全となる症例、胸部レントゲンにて著明な変化を認めなかったが、低酸素血症を呈し酸素投与が必要な症例、経過中に間質性変化を認めた症例などを経験した。その中で低酸素血症が持続した症例を中心に報告する。

influenza, hypoxemia, pneumonia

29. 急速に呼吸不全が進行した新型インフルエンザの4症例

六甲アイランド病院 小児科

○竹中佳奈栄、水田麻雄、古賀千穂、梶 瑞佳、中野加奈子、太田國隆

神戸市内で新型インフルエンザの発症が確認されてから約半年が経過した。この半年間に当院で経験した新型インフルエンザによる重症肺炎の4症例について報告する。いずれの症例も10歳前後の学童で、発症から24時間以内に急速に呼吸状態の悪化をきたしている。また、4例全例が基礎疾患として気管支喘息を有していたが3例では治療を必要としていなかった。これらの症例の詳細な経過とともに多少の文献的考察を交えて報告する。

influenza, asthma, pneumonia

30. 新型インフルエンザ感染に気胸を併発した気管支喘息の1女児例

兵庫県立淡路病院 小児科

○神吉直宙、中津久美、石橋和人、大橋玉基

今回新型インフルエンザ感染を契機に気管支喘息大発作を起こし気胸を併発した症例を経験したので、文献的考察を加え報告する。症例は気管支喘息の既往のある4歳女児。迅速検査にてインフルエンザA陽性（後日新型インフルエンザと判明）で、胸部X線上左気胸を認め入院。3日間胸腔ドレナージ施行、気管支喘息に対してプロタノール持続吸入及びステロイド静注にて治療し、気胸の再発なく入院12日目軽快退院となった。

H1N1 influenza, asthma, air leak syndrome

31. 当院で経験した新型インフルエンザ重症肺炎の1例

明石市立市民病院 小児科

○矢野未央、柴田真弓、石井るみ子、貫名貞之

症例は基礎疾患のない7歳女児。前日からの発熱、咳嗽のため入院。キットによる迅速診断ではインフルエンザ陰性であったが、入院後数時間で呼吸苦症状の増悪を認め、胸部レントゲンで急速な悪化を認めた。気管内挿管による呼吸管理、及びステロイド（mPSL 2 mg/kg/day）の投与で改善した。今回我々は急速に進行したインフルエンザ重症肺炎を経験したので報告する。

influenza pneumonia

32. マイコプラズマ感染を合併し人工呼吸管理を要した新型インフルエンザ肺炎の1例

神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学、公立豊岡病院 小児科¹⁾

○藤田花織、栗野宏之、八木麻理子、竹島泰弘、横田知之¹⁾、港 敏則¹⁾、吉田真策¹⁾、松尾雅文

症例は気管支喘息の既往のある9歳女児。発熱と同時に呼吸困難が出現し近医に入院。呼吸不全は急速に進行し半日後には人工呼吸管理となった。100%酸素投与下でもSpO₂が90%を維持できず神戸大学病院に搬送入院。排痰およびステロイド投与等により呼吸状態は改善した。PCRにて気管内よりインフルエンザA/H1N1が検出され、マイコプラズマ抗体価の上昇（40→160倍）も認め、これらの混合感染と診断した。混合感染により呼吸不全が重症化した可能性が考えられた。

influenzaA/H1N1, mycoplasma infection, pneumonia

33. インフルエンザ A (H1N1) 脳症の一例 —TSHの低下を認めた一例—

市立加西病院、加古川市民病院 小児科¹⁾

○世戸博之、新倉路生¹⁾、大西徳子¹⁾、岡野真理子¹⁾、小寺孝幸¹⁾、
中尻智史¹⁾、波多野史子¹⁾、小林光郎¹⁾、渡辺愛可¹⁾、山内 淳¹⁾、
上村裕保¹⁾、海老名俊亮¹⁾、親里嘉展¹⁾、西山敦史¹⁾、神岡一郎¹⁾、
湊川 誠¹⁾、森沢 猛¹⁾、足立昌夫¹⁾、村瀬真紀¹⁾、石田明人¹⁾

症例は8歳男児。新型インフルエンザに感染し、痙攣は無く第2病日に遷延する意識障害にて入院した。脳波は徐波化しておりインフルエンザ脳症と診断した。血中TSH、FT3、FT4低下を認め中枢性甲状腺機能低下状態であったため、メチルプレドニゾロン・パルス療法に加え第3病日よりTRHを投与した。第5病日より意識状態の改善を認め、後遺症無く軽快退院となった。特異な脳症例と考えられるので報告する。

encephalopathy, novel influenza A (H1N1), TSH

34. インフルエンザ A 型 (H1N1) 脳症の一例 —Twilight state を呈した一例—

加古川市民病院 小児科、市立加西病院¹⁾

○新倉路生、世戸博之¹⁾、大西徳子、岡野真理子、小寺孝幸、中尻智史、
波多野史子、小林光郎、渡邊愛可、山内 淳、上村裕保、海老名俊亮、
親里嘉展、西山敦史、神岡一郎、湊川 誠、森沢 猛、足立昌夫、村瀬真紀、
石田明人

症例は4歳男児。インフルエンザと診断されていた。左上下肢から始まる強直間代性痙攣の重積を認めた。痙攣はジアゼパム、フェノバルビタール静注で頓挫した。その後意識障害が遷延し脳波で徐波化を認めたため、インフルエンザ脳症に準じてオセルタミビル、ステロイドパルス療法を開始した。第2病日に意識清明となった。臨床経過と脳波から Twilight state であったと考えられる一例を経験したので報告する。

twilight state, influenza A (H1N1), encephalopathy

35. 急性心不全合併IVIG不応性川崎病に対する血漿交換療法の1例

神戸市立医療センター中央市民病院 小児科、六甲アイランド病院 小児科¹⁾

○廣田篤史、田中麻希子、米本大貴、吉田健司、宮越千智、岸本健治、清水 滋、太田村卓也、田場隆介、岡藤郁夫、宇佐美郁哉、山川 勝、冨田安彦、春田恒和、梶 瑞佳¹⁾、太田國隆¹⁾

背景：血漿交換（PE）はIVIG抵抗性川崎病治療の最有力選択肢であるが、循環動態悪化のリスクを伴う。症例：5歳男児、発熱と頸部リンパ節腫脹を主訴に第3病日前医へ入院、第6病日IVIG施行。第7病日心不全症状出現し当院転送、ICU収容循環管理。発熱持続し第8病日IVIG追加にも不応。第9病日から低濃度血漿を用いPE計4回施行後心不全増悪なく解熱。冠動脈一過性軽度拡大のみで第18病日退院。

acute heart failure, IVIG-refractory Kawasaki disease, plasma exchange, pediatric critical care

36. 当院における過去2年間の川崎病の動向について

兵庫県立塚口病院 小児科、同 小児外科¹⁾、
兵庫県立尼崎病院心臓センター 小児科²⁾

○川崎英史、大西 聡、丸茂智恵子、高原賢守、竹下佳弘、多久和麻由子、飯尾 潤、木村祐次郎、前田真治、松本貴子、芥川 宏、野中路子、毎原敏郎、平尾敬男、中條 悟¹⁾、片山哲夫¹⁾、坂崎尚徳²⁾

川崎病の初回IVIG不応例に対する定まった治療法はないが、当院の方針は、まずIVIG 2 g/kgの再投与を行い、さらに不応例の場合には前回の本会で発表したスコアリングシステムに基づいてステロイド療法か血漿交換療法を選択している。当院では初回IVIG不応例が増加しており、今回は過去2年間に加療した川崎病患者96症例（うちIVIG再投与を行ったのは26症例）を対象にして、IVIG不応予測や追加治療、冠動脈病変の予後について検討したので報告する。

Kawasaki disease, IVIG resistance, plasma exchange therapy, steroid pulse

37. 頻拍誘発性心筋症をきたした多源性心房頻拍の1例

兵庫県立こども病院 循環器科

○制野勇介、齋木宏文、澤野英樹、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子

症例は3ヶ月男児。出生時より不整脈を指摘されていた。嘔吐、呼吸障害のため近医受診し、著明な心機能低下、左室内腔拡大、頻発するwide QRS tachycardiaを認め当院搬送となった。心不全治療、抗不整脈薬を開始した後、心拍数コントロールに伴い心収縮は改善を認めた。臨床経過、心電図より多源性心房頻拍による頻拍誘発性心筋症と診断した。著明な心機能低下を認め、治療に難渋した症例を経験したので報告する。

tachycardia induced cardiomyopathy, multifocal atrial tachycardia

38. 新生児期に発症した心筋炎の1例

兵庫県立西宮病院 小児科

○西海直子、小西暁子、村井竜太郎、小泉眞琴、田中真也、安部治郎

日齢12の男児。妊娠分娩歴は娩出3日前の母体発熱以外に特記することなし。日齢3に黄疸入院。その際、血液検査にて炎症反応上昇を認めた為、ABPC + CTXを3日間投与（各種培養検査陰性）。一旦検査値は改善したが、日齢12に呼吸循環障害を認めた為NICU管理開始。心エコー、血液検査から心筋炎と判断し、即日ガンマグロブリン投与とした。結果、全身状態は速やかに改善。後に児の咽頭ぬぐい液からコクサッキーB5が検出された。

newborn, troponin T, γ -globulin, coxsackie virus B5

39. Amplatzer duct occluder(ADO)により動脈管を閉鎖した二例

兵庫県立こども病院 循環器科

○小川禎治、佐藤有美、富永健太、斎木宏文、藤田秀樹、田中敏克、
城戸佐知子

症例は2歳の女兒と9歳の女兒。ともに新生児期以降も動脈管は閉鎖しなかった。エコーにてcoilでの閉鎖は困難と判断。ADOが本邦でも使用可能となるまで待機することとした。そして2009年、ADOが保険適応となったのをうけ、これによる閉鎖術を施行した。動脈管の径、肺体血流比はそれぞれ3.2mmと1.9、3.9mmと1.3。閉鎖は成功し、術後の合併症も見られていない。この新しいdeviceの使用方法や適応などに関して報告する。

ductus arteriosus, Amplatzer duct occluder

40. 気管支喘息発作に合併した縦隔気腫・硬膜外気腫の1例

尼崎医療生協病院、あおぞら生協クリニック¹⁾

○横尾貴史、東口卓史、玉井友里子、武本英児、佐藤仁美、菅 純二、
合田美恵子¹⁾、藤岡一郎、富永弘久

【症例】5歳女児。【主訴】呼吸困難・頸部痛。【現病歴】入院2日前より、気管支喘息発作が出現。その後、呼吸苦・頸部痛が出現し当院紹介受診となった。胸部Xpにて両側上葉無気肺・縦隔気腫を、胸部CTにて硬膜外気腫を認め入院加療となった。硬膜外気腫は外傷や腰椎穿刺を含む医原性に発症することが多く、気管支喘息に合併するものは非常に稀であり、文献も散見される程度である。文献的考察を踏まえ報告する。

epidural emphysema, pneumorrhachis, pneumomediastinum, asthma

41. 小児期気管切開術後の気管腕頭動脈瘻の4例

兵庫県立こども病院 心臓血管外科、同 小児外科¹⁾

○松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、井上 武、河村朱美、門脇 輔、
西島栄治¹⁾、横井暁子¹⁾、尾藤裕子¹⁾

気管腕頭動脈瘻は重症心身障害児において気管切開術後にみられる致死的合併症である。最近経験した4例の救命例を報告する。3例は気道出血により緊急手術となり、腕頭動脈離断術、気管瘻縫合閉鎖術を行なった。他の1例は胸部CTにて気管腕頭動脈瘻が疑われ、頭部MRIによるWillis動脈輪の評価後、人工血管を用いた腕頭動脈転位術が行なわれた。救命、感染予防、術後脳神経障害の観点から至適術式について検討する。

tracheo-innominate artery fistula, surgical management

WAKODO

乳幼児用イオン飲料

アクアライト ORS

乳幼児の電解質・水分補給を新提案！

水分・電解質の吸収率を高めるため、浸透圧を200mOsm/Lと低くしています。

酸味を抑え、乳幼児が飲みやすいりんご風味です。

人工甘味料・保存料等は一切使用しておりません。



125mL×3個パック



乳幼児にとって理想的なバランスで電解質を補うことができます。
125mLの飲み切りサイズです。

和光堂株式会社 お客様相談室フリーダイヤル 0120-88-9283

●インターネットで和光堂情報を提供しています。http://www.wakodo.co.jp